

ニュース 玉手箱



ロケ地大石田への思い語る

大 石田町で国内ロケの大半が行われ、1月17日から全国の劇場で上映が始まった映画「コンプリシティ／優しい共犯」の公開を記念した近浦啓監督のトークイベント「大石田から世界へ」が、12月20日（金）に虹のプラザ多目的ホールで行われ、ロケ地大石田町への想いを語りました。近浦監督は、海外の映画祭で「ここは日本のどこ？」としきりに聞かれたことなどのエピソードを紹介。劇場では上映されない未公開シーンを上映しながら、「ストレスを感じたときは大石田での撮影のことを思い出すと力が湧いてくる」と町への想いを話しました。映画は現在、東根市のフォーラム東根など県内4映画館で上映されています。



生きることの意味パワフルに語る

大 石田町人権フェスティバルが12月8日（日）に虹のプラザ多目的ホールで開催されました。フェスティバルでは、中学生人権作文の表彰と入賞作品の朗読が行われ、大石田中学校2年生の合唱が披露されました。その後に行われた記念講演会「生きるって、なに？」では、世界65か国を旅したエッセイスト・たかのてるこさんが、少数民族の人々と触れ合った経験から「変えようと思っても変えられないのが個性」と話し、客席に向けてパワフルに、生きる意味や個性を育むヒントを提案していました。



おせちで明るく元気な正月を

食 生活改善推進員連絡協議会（長沢依子会長）のメンバーによるおせち料理作りが12月27日（金）に虹のプラザ調理室で行われました。これは町内の高齢者に、地元の食材を使用した手作りのおせち料理を食べてもらい、元気で明るい正月となるよう毎年実施しているものです。献立は昆布巻きにしんや黒豆や栗きんとんなど7品で、手作りしたおせち料理が色鮮やかに盛り付けられました。配送には社会福祉協議会の配達ボランティアが協力し、おせち料理約80個と初あめが高齢者の元へ届けられました。



サンタが家にやってきた

ク リスマスイブの12月24日（火）に福祉ボランティア「いこいの会」（森昇一会長）のメンバーによる、一人暮らし高齢者へのクリスマスプレゼント配布が行われました。会では、一人暮らしの方にもクリスマス気分を味わってもらおうと毎年この時期に手作りの贈り物をしていて、今年はやまがた緑環境税の交付金を活用して県産のスギ材で調味料入れを手作りし、中に詰めたお菓子とともに配りました。メンバーはサンタクロース姿に扮して、町内のおよそ50軒をまわり「元気でね」などと声をかけながらプレゼントを手渡しました。受け取った方はサンタクロースの訪問に顔をほころばせて「いつもありがとう」と手作りの贈り物を喜んでいました。



花アレンジで華やかなお正月

正 月向けのフラワーアレンジメントでよい新年を迎えてもらおうと、きらめき女性セミナー「モダンな正月花アレンジ」教室が12月27日（金）に虹のプラザ中会議室で開かれ、町内の女性20人が華やかなフラワーアレンジづくりを楽しみました。参加者は講師の伊藤絹枝さん（下宿）の指導を受けて、ユリや菊などの花を刺して、新年にふさわしいスタイリッシュな作品を作りました。伊藤さんは「すっきりと見せるのがコツです。華やかなお花を飾って気持ちよい新年を迎えてもらいたい」と話していました。



リズムダンス全国大会に出場

大 石田小学校6年生児童が「全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール」の全国大会に出場しました。このコンクールは、体育の授業で行われるリズムダンスをクラス単位で発表するものです。大石田小学校6年生チームはビデオ審査による予選を通過して、12月26日（木）に東京都で開かれた全国大会の小中学校規定曲部門に出場しました。全国から予選を通過したチームが出場するなか、大石田小学校チームの出場は3年連続で、入賞こそ逃したものの、組体操の要素を取り入れたダイナミックで息の合ったダンスを披露し、会場を沸かせました。



虹のプラザでの練習会でダンスを披露する大小チーム